

写

27生産第755号  
平成27年5月29日

関東農政局生産部長 殿  
北陸農政局生産部長 殿

生産局農産部園芸作物課長

高温・少雨に伴う園芸作物の被害防止等に向けた技術指導の徹底について

5月28日気象庁発表の1か月予報では、全国的に気温の高い状態が続くことが見込まれています。

特に、関東甲信及び北陸地域では、気温の高い状態に加え、向こう1か月の降水量は、平年より少ない確率が40%と見込まれており、今後も高温・少雨の状態が継続することが予想されることから、野菜、果樹及び花きの生育への影響が懸念されるところです。

このため、「農業技術の基本指針（平成27年改定）」（平成27年3月30日農林水産省ホームページ公表（[http://www.maff.go.jp/j/kanbo/kihyo03/gityo/g\\_kihon\\_sisin/sisin27.html](http://www.maff.go.jp/j/kanbo/kihyo03/gityo/g_kihon_sisin/sisin27.html)））を踏まえつつ、下記の事項に十分留意の上、作物の被害を最小限に抑え、生育の回復等を図るため適切な対応が行われるよう、貴局管内の各県に対し、技術指導の徹底を図るようお願いします。

## 記

### I 共通事項

- (1) 農業用水の確保のため、関係機関との調整を図り、計画的な配水が行われるよう措置する。
- (2) 農作業中の熱中症による死亡事故は、平成 22 年以降、毎年 20 件を上回って発生していることを踏まえ、別紙の内容に十分注意して作業する。

### II 野菜

#### (1) 全般

- ア かん水は、立地条件や品目、生育状態等を十分考慮し、早朝・夕方に実施する。また、地温上昇の抑制や土壌水分の保持を図るため、使用時期や施肥等に留意し、地温抑制マルチや敷わら等を活用する。
- イ 園芸用施設は、妻面・側面を開放するとともに、作物の光要求性に応じて、遮光資材等を使用し、施設内の温度上昇を抑制する。遮光資材は、果実の日焼けや葉やけの防止にも有効である。
- ウ こまめな除草や側枝、弱小枝及び下葉を除去し、風通しを良くする。
- エ 育苗箱は、コンテナやブロックでかさ上げし、風通しを良くする。
- オ ハダニ類、アブラムシ類、うどんこ病等干ばつ時に発生が多くなる傾向の病害虫については、その発生動向に十分注意し、適期防除に努める。

#### (2) 特に葉茎菜類

- 乾燥によるチップバーンを防止するため、薬剤防除時にカルシウム剤を混用する。

#### (3) 特に果菜類

- ア 不良果の摘果、若どりを行い、着果負担の軽減を図るとともに、適切な施肥により樹勢維持に努める。
- イ 老化葉、黄色葉を中心に摘葉を実施し、水分の蒸発抑制に努める。
- ウ カルシウム欠乏、鉄欠乏、ホウ素欠乏等の生理障害対策として、必要に応じて葉面散布を行う。

### III 果樹

#### (1) 干ばつ対策

- ア 干ばつ傾向にある地域においては、用水の確保に努め、敷わら、敷草等により、土壌水分の蒸発を極力抑制しつつ、適宜かんがいを実施する。
- イ 草生園においては、干ばつ期の草刈りを実施し、防水透湿性シートによるマルチ栽培を行っている園地においては、マルチを巻き上げてかん水を行う、かん水チューブによりドリップかんがいをを行う等により、地表面への直接かん水に努める。
- ウ なお、かん水に当たっては、かん水設備の漏水・目詰まり等に留意し、適切に

かん水が行われるよう事前に点検を行う。

## (2) 高温対策

ア 収穫期を迎えるおうとう、もも等の果実については、着色不良を防止するため、樹冠内光環境の改善、反射シートの活用によって着色を促す。

イ 着色が遅延することに伴い収穫時期が遅れ、果実が過熟とならないよう、適期収穫に努める。

ウ 高温によって果実の日焼けが発生しやすい園地においては、各種資材による遮光等の対策をとる。

## (3) 病虫害対策

干ばつ時に発生し易いハダニ類については、発生動向に十分注意し、発生初期からの薬剤防除を実施する。

## IV 花き

干ばつ傾向にある地域の露地栽培の花きについては、敷わら等マルチを用いて、土壌水分の蒸発防止に努める。

施設栽培の花きについては、寒冷紗や遮光資材を用いて、気温や地温、植物体温の上昇を抑える。また、妻面・側面を開放する等により、施設内の通風を図るとともに、室温の上昇を抑える。

ハダニ類、アブラムシ類、うどんこ病等干ばつ時に発生が多くなる傾向の病害虫については、その発生動向に十分注意し、適期防除に努める。